

レンガの敷き方

用意するもの (1380 × 920mmのスペースに合う分量)

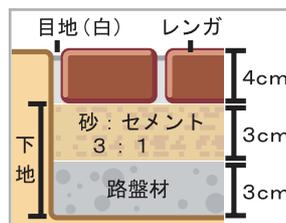
- ・敷きレンガ: ブリックヤートゴールドシングル --- × 40個
- ・川砂 ----- 20kg × 3袋
- ・路盤材 ----- 20kg × 3袋
- ・珪砂5号 ----- 10kg × 1袋
- ・セメント ----- 25kg × 1袋
- ・ガーデニングトントン
- ・スコップ
- ・クワ
- ・ハンマー
- ・ゴムハンマー
- ・レンガタガネ
- ・ベニヤ板
- ・水平器
- ・ホース
- ・タフブネ
- ・メジャー

1 寸法どり



まずは敷く場所の寸法を測ります。タテ・ヨコの辺の長さを測りましょう。次にレンガの1辺の長さを測ります。先ほど測った場所に何個のレンガが必要か電卓で計算して出します。

2 穴掘り



平均した深さで穴を掘り下地をきちんと仕上げるのが美しく敷くことにつながります。

穴の深さ=レンガの厚み+路盤材の厚み+セメントの厚みとなります。上の図を参考にして下さい。

3 路盤材で下地作り



まず敷くのは路盤材。厚さ3cmになるように敷きましょう。敷き終わったら足踏みをするようにして平らに踏み固めていきます。ベニヤ板があればそれを敷いて板の上から足で平らにします。ガーデニングトントンを使い圧力をかけ締めると楽にきれいになります。

4 バサモル(セメント+砂)を敷く



「バサモル」とはバサバサしたモルタルという意味の専門用語で、次のように混ぜたものです。
砂:セメント=3:1
次にスコップで厚さ3cm程度になるようにバサモルを盛りましょう。盛ったあとはスコップや板を使い、スゥースツと平らにやらしていきます。

5 レンガの敷き込み



端の方からレンガを敷いていきます。隣のレンガとの間隔は「目地」として5~8mm程度開けていきます。レンガの間にこの厚みを持つ木片を



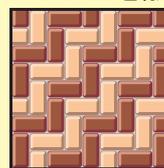
端の部分は半分サイズのレンガが必要です。今あるレンガを半分サイズに割って使用します。割りたいレンガを板(または砂)の上に置いて、

中心に鉛筆で線を入れます。この付けた線に沿ってレンガタガネの刃をレンガに当て、ハンマーで四面を少しずつ打っていきます。切断面が揃っていない場合、目地で調整するのむひとつの手です。

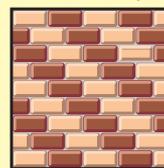
使いながら目地を取るときれいにできます。レンガの上で作業するときは、パターンが崩れないようにベニヤ板等の上に乗ってしましましょう。

MEMO

レンガを敷くパターンの1例



ヘリンボーンとても魅力的で強い方法です。車が通る場所に最適です。



ストレッチャー歩道向きです。目地の幅を調整しカーブを作ることが出来ます。

6 ゴムハンマーで叩いてフラットに



敷き詰めたレンガの凹凸を均一にするためにゴムハンマーで叩いて押え込んでいきましょう。1回で締めようとせず、何回も叩いて様子を見ます。

7 珪砂を目地に埋め込む



珪砂とは石英だけで作られた砂のことです。袋を開け、ホウキを使ってレンガの目地全体に入れ込んでいきます。すきまがしっかり埋まるよう丁寧に作業をして下さい。

8 散水



散水作業は単純に珪砂を洗い流すだけではありません。目地を締めながら通った水が、下地に敷いた『バサモル(セメント+砂)』を固めて、レンガを下から固定する役割もあります。ひととおり水を撒いたら、レンガを指で押しみましょう。びくともしない頑丈なものになっていることに驚くと思います。24時間くらいは上に乗らないようにし、重量物を置く場合は1週間以上たってからにしましょう。完全な仕上がりになります。

Howto.なび

動画でもっとわかりやすく!暮らしに関するHowto情報を動画で配信中。



How To 情報

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。

